



SG3 副議長（新任）

KDDI株式会社

ほんどう えりこ
本堂 恵利子

〈プロフィール〉

専門領域：ITU-Tにおける事業者間精算の取決めやその他国際標準化団体・国際フォーラム等で扱う政策的事柄

2005年 SG3ラポータ（国際呼携帯着信料金、国際ローミング等）

2012年 ロンドンにてGSMAのモバイルマネージメントほかを担当、並行してSG3ラポータ継続

2017年 SG3ラポータ（課題2：精算全般）

2022年 WTSA-20にてSG3副議長就任

—— 先のWTSA-20での選出そしてご就任おめでとうございます。今回、副議長に任命されたことについて率直なお気持ちをお聞かせください。

本堂 ありがとうございます。無事に、まだ副議長ではありますが、前任の津川氏（元KDDI、2017-2021研究期でSG3議長二期満了）より業務を引き継いでほっとしていると同時に、長年参加してきたSG3のマネージメントチームに加われてワクワクしています。

—— ご担当事項（ご専門領域）とご経歴、ITU（SG）との係わり（年数など）、その他の標準化機関での活動などを教えてください。

本堂 SG3の担当が長くなり、既に私のライフワークと言えます。かつては、国際事業者間料金・精算交渉に関わる事柄が主議題でしたが、近年は、通信事業者以外（例えばコンテンツ事業者）との交渉や、各種新技術の導入等に関わる政策的な共通の考え方を扱うようになってきています。政府間政治フォーラムやOECD等国際機関、GSMA等通信事業者を中心とする民間フォーラムでも同様の議題が扱われている状況です。

—— 次研究会期におけるご担当の研究委員会の最重要テーマ・課題はどのような事とお考えでしょうか。

本堂 前研究期に引き続き、OTTプレイヤーに対する政策や各種精算に関わる勧告もしくはガイドラインやレポートづくりがホットなテーマになりそうです。

—— 副議長としての抱負をお聞かせください。どのようなところに力点を置いて活動されるご予定でしょうか。

本堂 まずはWP1の議事にて、フロアのみなを迷わせることなく、先導していくことです。よく準備し、よく意見を

聞き、みんなを巻き込み、決断する、といった感じで一步一步、と思っております。

—— 副議長としての難しさや障壁はどのようなものが想定されるでしょうか。また、そうしたことへの対処方法はどうお考えでしょうか。

本堂 SG3参加者の7~8割は途上諸国であり、彼らの寄書や発言の背景を理解した上で議事を進める必要があると思っています。そのため、寄書文面だけでなく、各国の通信・経済事情を理解しておくことに加え、対面会合では寄書提出国をはじめとした出席者と良いコミュニケーションをとっていきたくと考えております。

—— ポストコロナのSGの活動はどうなっていくと思われませんか。また、どのようにしたいとお考えでしょうか。

本堂 コロナ後、初のSG会合（2022年5月）にジュネーブにて参加しました。やはりマネージメントにおいては、会って話すことから生まれる一体感が醸成されたと思います。対面の場合は、特にコーヒープレイクなどの時間は、その後の展開の大事なターニングポイントとして有効活用したいと思っています。オンラインの場合は、コミュニケーションレベルが下がる分を加味して全体的に丁寧かつ慎重な対応が必要だと思っています。

—— 我が国、各加盟国の政府関係やICT産業界からの理解や協力についての期待をお聞かせください。

本堂 SG3で扱う議題は、政策的にセンシティブだったり、先進国にとってはピンと来なかったり落としどころの面倒なものもありますが、世界レベルでの業界動向から、日本が今後どういった立ち位置を望むかといった点において重要な課題を扱っていると思っています。そのあたりをご関係の方々とも共有できるよう、いろいろな機会でもSG3の様子をお伝えしたいと思っています。

—— 最後に、個人の信条や、プライベートな時間でのご趣味などをお聞かせください。

本堂 国際会議に初参加する時、「会議を楽しんで来てね」と送り出されました。楽しむの意味は深く、これを体感し続け、少しずつ若い世代に伝えていくことを信条に、と思い始めたところです。プライベートでは、美味しい食べ物、映画、舞台全般、読書はアガサ・クリスティー（特にポワロ）が好きです。

—— 読者へのメッセージをお願いいたします。

本堂 引き続きSG3活動へのご協力、ご指導ご鞭撻をどうぞよろしくお願いいたします。

【読者のための豆知識】

SG3の活動内容：料金及び会計原則並びに国際電気通信・ICTの経済及び政策課題